

第 1 回志賀町地域公共交通活性化協議会
議事録

1. 日 時：平成 29 年 9 月 15 日（金） 10：00～12：00

2. 会 場：志賀町役場 1 階 大会議室

3. 出席者名簿

区 分	氏 名	現 在 職 名	備 考
1 号委員	庄 田 義 則	志賀町副町長	
2 号委員	稲岡 健太郎	志賀町議会 副議長	
	櫻井 俊一	志賀町議会 総務産業建設常任委員長	
3 号委員	仙崎 登喜夫	志賀町区長会 会長	
	松村 和子	志賀町民生児童委員	
	南 進	志賀町老人クラブ連合会 会長	
	干場 昌明	志賀町老人クラブ連合会 副会長	
4 号委員	松田 隆一	北鉄能登バス(株) 取締役支配人	
5 号委員	酒谷 正人	(株)高浜タクシー 代表取締役	
	戸坂 忠寸計	(有)能登金剛交通 代表取締役	
6 号委員	畑 山 修	北陸信越運輸局 石川運輸支局 主席運輸企画専門官	
7 号委員	今村 友紀枝	石川県企画振興部新幹線・交通対策監室 交通政策課 主幹	
8 号委員	野崎 寛成	石川県羽咋警察署 交通課長	
9 号委員	梨村 要一	石川県中能登土木総合事務所 羽咋土木事務所 維持管理課長	
	関田 勝行	志賀町 まち整備課長	
10 号委員	高山 純一	学識経験者（金沢大学教授）	
	中川 大	学識経験者（富山大学副学長）	
	池田 隆盛	志賀中学校長	
	中田 明	志賀町商工会 事務局長	山海 雄也氏 が代理出席
	大正路 哲郎	富来商工会 事務局長	
	川畑 智	志賀町 健康福祉課長	
	浜村 大	志賀町 商工観光課長 (志賀町観光協会事務局長兼務)	
	山本 政人	志賀町 学校教育課長	

事務局	出崎 茂男	志賀町 企画財政課ふるさと創生室長	事務局長
	瀧川 哲也	志賀町 企画財政課ふるさと創生室 次長	
	山口 宗浩	志賀町 企画財政課ふるさと創生室 主査	
	北川 真理	計画情報研究所 主任研究員	
	山本 健	計画情報研究所 研究員	
	千徳 信好	計画情報研究所 研究員	

4. 協議会次第

1 開会

2 挨拶

3 出席者紹介

4 地域公共交通網形成計画について（資料1）

5 報告

(1) 志賀町地域公共交通活性化協議会設置に至る経緯等について（資料2）

(2) 志賀町地域公共交通活性化協議会設置要綱について（資料3）

(3) 志賀町地域公共交通活性化協議会役員の選任について

6 議事

(1) 事業計画等について

(資料4-I. 事業計画等について)

(2) 地域及び地域公共交通の現状等について

(資料4-II. 関連計画と地域公共交通網形成計画の位置づけ)

(資料4-III. 地域および地域公共交通の現況)

(資料4-IV. 検討の視点(案))

(資料4-V. 地域公共交通の課題(途中経過))

(3) 町民の公共交通利用実態と意識調査企画について

(資料4-VI. 町民の公共交通利用実態と意識調査 企画(案))

7 その他

8 閉会

5. 議事内容

1. 開会

2. 挨拶

(小泉町長)

皆様おはようございます。

第1回志賀町地域公共交通活性化協議会の開催に当たり、日頃から本町の地域公共交通に格別の理解、協力を頂いている皆様に心より感謝申し上げます。また、金沢大学の高山先生、富山大学の中川先生、地域公共交通の活性化に尽力を頂いている皆様に本協議会委員へ就任頂き心から感謝申し上げます。

本町の公共交通は路線バス、タクシー、コミュニティバス、スクールバスなどが運行されており、学生や高齢者にとっては必要不可欠な交通機関となっている。一方、少子高齢化や人口減少により公共交通利用者数の減少が進む中で、民間会社が運行する生活バス路線の維持対策、コミュニティバス運行計画の見直し、地域公共交通に係る費用負担の増加など様々な課題が生じており、早急に町民のニーズを踏まえた対策を講じていく必要があると考えている。このため、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づく法定協議会を組織し、地域全体の公共交通の問題点及び課題を整理するとともに、公共交通の基本方針などを検討して頂き、本町の地域公共交通網形成計画及びコミュニティバス再編計画を平成30年度末までに策定したいと考えている。皆様には十分な理解を頂き、本日の協議を行いたいと考えている。

地域の需要に即した公共交通ネットワークの実現に向けて、委員の皆様の力添えを頂けるよう、心からお願い申し上げ冒頭の挨拶とする。

3. 出席者紹介

<事務局より紹介>

4. 地域公共交通網形成計画について

<北陸信越運輸局石川運輸支局、畑山首席運輸企画専門官より説明> (資料1)

5. 報告

(1) 志賀町地域公共交通活性化協議会設置に至る経緯等について

<事務局より説明> (資料2)

(2) 志賀町地域公共交通活性化協議会設置要綱について

<事務局より説明> (資料3)

(3) 志賀町地域公共交通活性化協議会役員を選任について

<事務局より会長に高山先生、副会長に庄田志賀副町長が指名された旨を報告後、高山会長より挨拶>

(高山会長)

皆様こんにちは。指名ということで会長を務めさせて頂く。私は金沢生まれであり、志賀町には幼少の頃から何度も来たことがある。学生時代や大学勤務となっても幾度となく訪れている。いくつかお手伝いをしたこともあり、最近の事業としては都市計画道路網の見直しについて携わった。また、先日は志賀の郷において研究室の夏合宿を行い、非常に楽しく過ごさせて頂いた。

のと里山海道の無料化以降、志賀町は金沢から約1時間の距離となり非常に便利となった。西山台にも新しい住宅団地が造成されており、この場所からは志賀町内への通勤のみならず七尾市や金沢市にも近くなったと思われる。

協議会開催に当たり、事務局より地域の公共交通について事前説明を受けた。志賀町は、路線バス以外にもコミュニティバスが非常に手厚く各地域を運行している印象を受けた。他の自治体と比較しても随分手厚いという感想である。一方、今後もコミュニティバス路線を維持していくことは困難な一面もあると思われる。事前説明によると、多数の利用がある路線もあれば、利用の少ない路線もあるとのことであった。先ほど事務局からの説明にもあったが、本協議会においてコミュニティバス路線の見直しや効率化を図ることに関して模索していくことと思われる。このため、本法定協議会は重要な役割を担っている。各委員は地元の代表であり、各地域の事情に詳しいため、今後の検討内容について忌憚のない意見を頂戴したい。

6. 議事

(1) 事業計画等について

<事務局より説明>

(資料4-I. 事業計画等について)

(高山会長)

事業計画等について、意見、質問等を頂きたい。

特に意見等がないようであるため、次の協議事項「地域及び地域公共交通の現状等について」に進ませて頂く。

(2) 地域及び地域公共交通の現状等について

<事務局より説明>

(資料4-II. 関連計画と地域公共交通網形成計画の位置づけ)

(資料4-III. 地域および日地域公共交通の現況)

(資料4-IV. 検討の視点(案))

(資料4-V. 地域公共交通の課題(途中経過))

(高山会長)

地域及び地域公共交通の現状等について、質問、意見等を頂きたい。

志賀町を運行しているコミュニティバス、路線バスの現状に関し、利用者数や運行経費についてはあまり知らない方が多いと思われる。路線バスについては運賃収入のみでは運行が難しい状況にあり、志賀町に限定せず県や国からの補助が様々な形態で負担されている。また、路線によってはバス事業者自体が赤字分の経費を補填している。一方、最近では事業者による赤字補填も困難となっており、町に対し補助の増加を依頼する状況となっているようである。

スクールバスにおいては、小、中学校の統合等が行われた経緯から、年間1億円程度の経費が掛かっている。これらの事項も踏まえて質問、意見があれば頂戴したい。

(戸坂委員)

資料では、富来地域、志賀地域という区分で説明があったように思われた。住民の中には富来地域から志賀地域へのコミュニティバスの運行を強く要望する声がある。検討の視点として、コミュニティバスと路線バスの利便性の向上があるが、この意見はその範疇に含まれると思われる。コミュニティバスの運行再編を根本的に考える場合、このような意見に関し可能であれば検討頂きたいが、本協議会での検討事項となるか確認したい。

(高山会長)

基本的に地域公共交通は、元々の路線バスがあり、路線バスの運行の無い地域をコミュニティバスがカバーしている。また、スクールバスについても本協議会において地域公共交通と位置付け同時に検討は行うが、利用が生徒限定となっている場合、他の市町では地域公共交通とは別の位置付けとしているところもある。

富来地域と志賀地域の間を結ぶ路線バスがない場合、コミュニティバスの運行についての意見は考えられるが、現状において路線バスが運行しているとなれば、本来の公共交通である路線バスの運行経路にコミュニティバスを運行させることは基本的に実施しにくい一面もあると考えられる。

(戸坂委員)

路線バスの運行本数が十分であれば問題ないが、現状における運行本数の関係からこのような町民要望が上がっていると思われる。本協議会で検討してもよいのではないかとと思われる。

(高山会長)

検討の余地はあると思われる。その場合、コミュニティバス運行ダイヤの設定等に関し、路線バス運行事業者との協議が必要と考えられる。

(松村委員)

富来地域と志賀地域を結ぶコミュニティバスの意見に付け加えたい。10年、20年先に、人口形成の観点から、仮に役所機能が志賀町役場に一本化されるとなった場合、富来地域の方々は役場に手続きに行くこととなる。自分自身もいつまで運転を行うか不明であるが、ピクニックコース、病院コースというように、富来地域、志賀地域を結ぶコミュニティバスがあってもよいのではないかと考えている。

(高山会長)

役場や支所の役割をどうするかについては大きな問題であり、この地域公共交通網形成計画の検討においても重要な視点ではあるが、支所が廃止されるとなった際に検討することになると思われる。一方、現在の富来支所は廃止しない、廃止できないと思われるが町長はいかがか。

(小泉町長)

当然なくせないと考えている。

(高山会長)

実際は廃止できないと思われる。先ほど2名の委員から富来地域と志賀地域を結ぶコミュニティバスの運行要望について意見があった。中川委員から何か意見はあるか。

(中川委員)

私は、志賀町を通過したことは何度かあるが、町内を移動したことはなく、具体的な路線等については改めて勉強したい。

私は、様々な地域においてこのような会に参加しているが、感じていることや全国の動向などを紹介させて頂く。資料説明より、バス利用者数はこの10年間で40%程度減少しているとのことであったが、バス利用者数が減少して当然という時代は確かにあった。それは、自動車の普及率や免許証の保有率が上昇を続けた時代であったが、10年から15年程度前で頭打ちとなっている。このため、バス利用者数については10年から15年程度前に底を打っていてもおかしくはない。以降は高齢化の進展など、利用者数の増加要因もあり、利用者数の増加がみられる地域や路線が次々に出てきている状況でもある。

志賀町のデータを見ると、人口の減少率以上にバス利用者数の減少率が高い状況である。バス利用者数の減少率を少なくとも人口の減少率程度に留める可能性は十分にあり、上昇していく余地もあるのではないかと感じている。

多くの地域において、バス事業者の視点では、利用者が少ないため運行本数の減少など利便性の低下はやむを得ないと考えていると思われるが、利用者の視点では反対であり、利便性が高ければ利用するが、現状のダイヤでは利用し難いという考えがある。両者ともに前向きではあるが、望ましい改善方法が分からず、「乗らないから利便性が低下する、利便性が低下するから乗らない」という悪循環となっている事例が多くみられる。

今回の地域公共交通網形成計画の検討においては、公共交通の利便性を向上させ、ネットワークとして利用しやすくするという前向きな方向での議論が進んでいくことと思われる。そのため、先ほどの意見にもあった、幹線道路においてバス事業者の路線があるところを維持発展させていくことは非常に重要なことであり、利便性の向上について協調しながら取り組むことが必要である。例えば、約1時間間隔で運行されている路線があれば、1便か2便の増便により完全に1時間間隔のダイヤを作成できる可能性もある。このような路線で協調して取り組むことが必要である。金銭面で協調するか増便部分を地元のバスが担うかなど様々な方法が考えられる。まずは幹線路線を少しでも利用してもらえる工夫を行い、その幹線路線に多くの路線を接続させるというダイヤの作成方法も一案と思われる。本協議会においては、前向きな発想で議論を行うことが望ましいと思われる。

(3) 町民の公共交通利用実態と意識調査企画について

<事務局より説明>

(資料4-VI. 町民の公共交通利用実態と意識調査 企画 (案))

(高山会長)

今後、町民の公共交通利用実態と意識調査のため、町民アンケート、町民ヒアリング、施設ヒアリングの3つの方法で調査を実施するとのことであるが、意見、質問等を頂きたい。

(大正路委員)

町民アンケートについて、コミュニティバスのみに関する調査という印象を受けた。本協議会は路線バスの今後についても検討範囲であると考えており、アンケート調査に関し3点発言したい。

1つ目は、富来地域は大変不便な場所にあり志賀町役場からも30分程度かかる。路線バスでは金沢からの急行バスが運行しているが、便数は減少傾向である。その本数を増やしたいという思いはある。また、金沢から輪島行、珠洲行、七尾行といったほとんどのバスは里山海道の西山パーキングを経由しているため、西山パーキングから富来地域を結ぶコミュニティバスの運行に関し検討できないかと考えている。

2つ目は、富来地域から高浜バスターミナルへの直通便を運行して頂きたい。高浜バスターミナルからは病院や志賀高校にも移動可能であり、路線バスへの乗継により七尾市、羽咋市、金沢市へも移動可能となる。これにより高浜バスターミナルのハブ機能が強化されると思われる。また、この直通バスについては、既存の停留場で手を挙げれば止まるというような臨機応変な対応が可能となれば望ましい。

3つ目は、富来地域の観光による交流人口の拡大を目指して、巖門、機具岩、世界一長いベンチなどの観光地を結ぶ周遊バスの運行について検討頂きたいと考えている。この点に関し、町民アンケート3ページの自由記述欄に記入頂くことも考えられるが、回答しやすい項目を挿入することも一案と思われる。

会長始め、委員は富来の実態を把握していると思われるが、金沢からのバスが非常に少ないという現状がある。例えば、子どもが東京から富来に帰省する際には、バスがないため金沢まで迎えに行くのが当然となっている。東京から金沢まで新幹線では2時間半であるが、往復3時間かけて金沢へ迎えに行く状況である。このままでは、若い世代に帰って来いと言っても難しい面がある。様々な施策を町長も考えていると思われるが、本協議会の検討事項が人口減少の歯止めの一つになればよいと考えている。

(高山会長)

現在、西山パーキングから志賀地域、富来地域を結ぶコミュニティバスの運行状況はどうか。

(事務局)

志賀地域のみであるが、加茂循環線が運行している。

(高山会長)

高浜バスターミナルは元々拠点であり、かつてはこの周辺のエリア全体へバスが運行されていたと思われる。また、観光目的以外でも周遊バスが重要な役割を持つ場合もある。観光地を結ぶ周遊バスに関する提案があったが、北陸鉄道は以前このような周遊バスの運行を行っていたか。

(松田委員)

周遊バスとしての運行は行っていなかったが、路線としては現在よりも網羅していた。観光利用に関しては、和倉から出ている定期観光バス等で対応していた。

(戸坂委員)

町民アンケートについて、2 ページ目の「志賀町の公共交通について」の文面が非常にマイナス思考であると思われる。民間事業者の場合は、費用対効果を考慮し運行が困難と判断する場合もあるが、行政の場合は住民の利便性向上のために費用対効果をあまり考慮しない場合もあると思われるため、この項目の文章について書き過ぎてもよくないと思われる。

また、問 6 と問 7 の設問についてもマイナス思考であり、今後コミュニティバスの利用者数を増やすにはどうしたらよいかという設問があってもよいと思われる。マイナス思考の設問ばかりでは、町がコミュニティバスの運行を減らしていくという印象を町民に与えかねない。このアンケート案は誰が作成したものか。

(高山会長)

アンケートの原案については事務局と私で内容を確認した。町民の多くは町が将来的にもコミュニティバスや路線バスを維持してくれると思っている可能性があるが、志賀町以外の各自治体においても路線の維持が次第に難しい状況となってきている。このような状況において、町民にとって公共交通であるコミュニティバスや路線バスを自ら利用して維持していく、利用しないと維持されないという意識を持ってもらうことも必要と考え、少し刺激的な設問としている。

(戸坂委員)

危機感ばかりを煽るような設問と思われたので、コミュニティバスを今後維持するためにはどうするかという設問があった方がよいかと思い質問させて頂いた。

(高山会長)

自由意見以外にもそのような設問を設けることとしたい。

(中川委員)

町民に対し現状を理解してもらうために、マイナス面のデータを出すことはよいと思われるが、これからの利用を促進するために、町民に期待感をもって頂く内容もあると望ましいと思われる。町民アンケートには送付状等は付けるのか。

(高山会長)

調査用紙のみではなく、アンケートの依頼に関する記載は行う。

(中川委員)

送付状かアンケート上かはともかく、今回の調査や協議会の目的として、「より便利な公共交通を目指している」というメッセージは伝えた方がよいと思われる。町民の多くは、公共交通が不便だから利用できないと思っている可能性があり、「このまま公共交通を利用しない場合は無くなる可能性がある」と言われても、「そうは言っても乗れないものは乗れない」と思われる方も多いと考えられるため、前向きな設問を設定し、町民が期待をもって「皆で乗れるものを皆で作っていく」という方向となれば望ましいと思われる。

他自治体において、利用者が増加し始めているところも現れている。このような場所では、一つは利便性の向上に向けて努力をしている。例えば、便数の変更ができない場合はダイヤを分かりやすくしている。もう一つは住民の方々の意欲である。「皆で盛り上げていくことが重要である」という意欲があるか、あるいは「これは役場がやっていることだから自分達には関係ない」と思っているか、この点が分かれ目であると思われるため、町民アンケート実施の目的の一つとしては、「前向きな視点で頑張ろう」、「町民の皆さんの努力によって変わってくる」というメッセージを伝えることであり、そのような設計ができるとうい。

(干場委員)

私は老人クラブを代表している。町民アンケートについて意見が出たが、私はこれで良いと思っている。私は本協議会の委員就任の依頼を受けてから、とぎ地域福祉センターに2、3日通い、バスに乗ってくる利用者の意見を伺った。住民の皆さんは、公共交通が不便であることを感じているが、「あるバスが使えなかった時にはAコープのバスを利用すればよい」など工夫をしながら利用している状況である。

最も要望があるのは、病院の受付時間に対して現状より早く到着可能なバスを運行できないかということである。バス停に9時前に到着しても、乗降に時間がかかると9時を過ぎて病院に着く。そうすると12時や1時にならないと診療が終わらないため、このような要望となっている。

また、日曜日に運休となるバスについては、1週間に2~3回の頻度で温泉に行くため、

日曜日のバスは不要との意見もある一方、日曜日にバスがあれば、日曜日に温泉に行くという意見もあった。

いずれにせよ、町民は町民で努力をしていると思われる。公共交通の見直しを検討するにあたり、町民の期待に応えられるよう、アンケートやヒアリングを実施したいと考えている。きめ細かなアンケート調査をして頂きたい。

(高山会長)

町民の意見を詳細に把握するためにも、町民アンケートに加え、町民ヒアリング及び施設ヒアリングを実施し町民の意見を頂く予定である。ヒアリングについてはどの程度の方々に集まって頂くか、これから検討することと思われるが、是非、生の声を聞かせて頂きたい。

他に意見がないようであり、次の議事「その他」に進ませて頂く。

7. その他

(事務局)

先ほど大正路委員から観光の観点で質問があったが、商工観光課長である浜村委員からも観光的な要素の中での要望、考え方があれば意見を頂きたい。

(浜村委員)

私は商工観光課であるが観光協会も兼ねており、観光客から観光地への行き方に関する相談を受けている。特に、巖門に行きたいという相談が最も多い。巖門を紹介するときは、まず富来駅まで来て頂くことを伝えるが、富来駅から都合のよい時間にバスがないという状況があり、4人などの場合はタクシーを薦めている。コミュニティバスの場合、観光客の望む時間帯に運行があるとは限らないため、観光客にとって巖門は行き辛い場所であることは事実である。

昭和30年代後半から40年代にかけて能登ブームが起こった際には、高浜から荒屋線、巖門線という2つの経路が存在した。また、巖門経由で富来まで運行する経路もあったが、現在ではこのような経路はない。この点に関連しているかは不明であるが、能登ブームの時には年間100万人の観光客が巖門に訪れたが、現在では20万人を下回っている。大型の観光バスによる旅行が減少していることが最たる原因ではないかと考えているが、巖門に向かうバス路線が増加すれば、現実的に観光客の増加も期待できると思われる。住民のためのバス路線という位置付けが一番ではあるが、観光客も利用可能となれば大変望ましいことである。町の現状としては、バス路線が少ないことに対し、レンタカー助成事業を行い対応させて頂いている。

(事務局)

定住促進住宅地などへのアクセスについて、まち整備課長の関田委員より意見があれば頂きたい。

(関田委員)

現在、高浜地域内で宅地造成を行っている。一つの区画が完成し、32 の分譲地が完売した。その内、建設済みが 14 戸である。建設中の物件もあるが、主に若い世帯が入居する状況であることと関係しているのか、コミュニティバスのルートやバス停の新設等に係る要望は現段階において頂いていない。町として今後も宅地造成を進めていくが、進捗状況や必要に応じ、地元との協議を行いながらルート或いはバス停の新設について検討していきたいと思っている。その節は協力をよろしくお願ひしたい。

(高山会長)

観光と定住促進の観点からの情報提供を頂いた。町議員の方々は地元から何か意見が上がっているか。

(櫻井委員)

私の地区は高浜であり、様々な点について便利といえば便利であるが、金沢行き of 急行バスが少ないという意見は頂いている。また、西山パーキングから高浜へ向かう路線を増やしてほしいという意見がある。

(稲岡委員)

私は土田地区在住である。土田地区は 2 つのコミュニティバス路線、土田西回り線、土田東回り線がある。コミュニティバスの性質上、仕方ない一面もあるかと思われるが、住民からは目的地に到着するまでの所要時間が大変長い点について不便であると意見を頂いている。

また、高齢化の進展とともに免許証の返納者が増加している。現在、金沢大学が珠洲市において自動運転の実証実験を実施しているが、交通手段を持たない高齢者が増加していく状況において、このような新たなテクノロジーについても公共交通を考える際に盛り込んで頂けたらよいと思われる。

(高山会長)

確かに珠洲市において自動運転の実証実験を 2 年ほど前から実施している。現在はまだ時折手を添えながら運転している状況である。珠洲市では 9 月 3 日より奥能登国際芸術祭が開催されており、土日に自動運転のデモ走行を行っている。観光客や地元の方に自動運転を体験して頂き、感想や要望を頂きたいということで始めている。特に地元の方の意見を把握したいと考えている。初日の状況を見ると 20 数名の利用があったが、地元住民の利用は少なく観光客が主であった。

自動運転の実用化をどの段階で行うかの判断については難しい面があるが、2,020 年代中頃から 2,030 年程度までには完全自動運転化を目指したいと考えている。ボタン一つで車が迎えに来てくれる夢のような世界になればよいが、車に係る経費が現状では高額であり、1 台 4,000 万円～5,000 万円である。このような現状では、一般の方の購入は困難であ

り、町が購入し運行を行うとしても高額であるため、バスを運転手が運転する方が経費は安価である。将来的には、自動運転のバスや車がより安価となっている可能性もあるが、それまでの間は人間が運転を行う必要があると思っている。

本日は第 1 回目の協議会ということで、今後の協議会の進め方に関し説明があった。また、検討を進めるに当たり地元住民の利用実態や意見を把握すること等に関し貴重な意見を頂いた。本日の協議内容については事務局と相談し、地域公共交通網形成計画を作成するための参考としたい。どうもありがとうございました。

(事務局)

次回の協議会は来年 1 月の開催を予定している。詳細な日程については改めて案内させて頂きたい。

これをもちまして、第 1 回志賀町地域公共交通活性化協議会を終了致します。委員の皆様、大変ありがとうございました。

以上